

## 一第89編 一闇の復権

横浜市の景観行政に審議会の委員・委員長として10年近く係った。良く知られているように、1970年代の飛鳥田市長時代<sup>\*1</sup>に都市デザイン室が創設され、縦割りの行政機構を横につなぐ画期的なまちづくりの体制が田村明等<sup>\*2</sup>によって整えられた。その後、膨大な仕事をこなしながら、優れた人材に恵まれた横浜市は、都市デザインの分野では日本で最

も先鋭的で魅力的な成果を残すのである。今ある関内地区からみなとみらい地区<sup>3</sup>一帯の水際は、地元と協議しながら作り上げてきた膨大な仕事のほんの一部ではない。

2000年を過ぎて、そうした舞台に立てたことは幸いであった。当たり前だが課題は山積していた。2005年12月、イギリス最古の建築学校AAスクールのユニットが来日することになった。そこで首都圏の大学の建築学



写真89-1 新港地区・みなとみらい鳥瞰 (提供:横浜市)

科の学生達とワールドワークとワークショップを行い、「闇の復権〜光の闇の光〜」というテーマで関内地区の4箇所<sup>3</sup>にまちづくりを提案し合うプログラムを組んだ。

一般的に日本の都市や住まいの夜は明るすぎる。規格を作った業界の策略ではないかと思わせるほど明るい。特に夜の暗さに文化を感じるヨーロッパの学生たちにとって、違和感をもたらす。陰翳礼讃の文化を持つはずの我が国にとって、エネルギー消費と連動する大きな問題である。

多くの異なる国から集まった20名を超える学生たちは、たまたま展示館でもある旧倉庫のBankArtで開催されていた寝具の展覧会の作品に寝泊まりしながら、夜つびいて魅力的な提案を作り上げた。グループは大栈橋、馬車道、汽車道、中華街の4つの地区に分かれ、それぞれの地区の分析に従って「闇の復権」を思い思いに表現する。最終日はそのプレゼンテーションにあてられたが、世界的な照明デザイナー<sup>\*3</sup>面出薫の協力も得て、これまでにならぬ成果とアイデアの発信と交換に若い力の可能性を実感することとなった。その舞台として、港湾都市としての多様性が凝縮された横浜関内地区ほどふさわしいところはなかったのである。



写真89-2 闇の復権作品-1



写真89-3 闇の復権作品-2

\*1 飛鳥田一雄  
(1915〜1990)  
横浜市出身の政治家。  
衆議院議員、横浜市長、  
日本社会党委員長を歴  
任

\*2 田村明  
(1926〜2010)  
日本の代表的地域政  
策プランナー

\*3 面出薫 (1950〜)  
日本を代表する建築照  
明デザイナー